

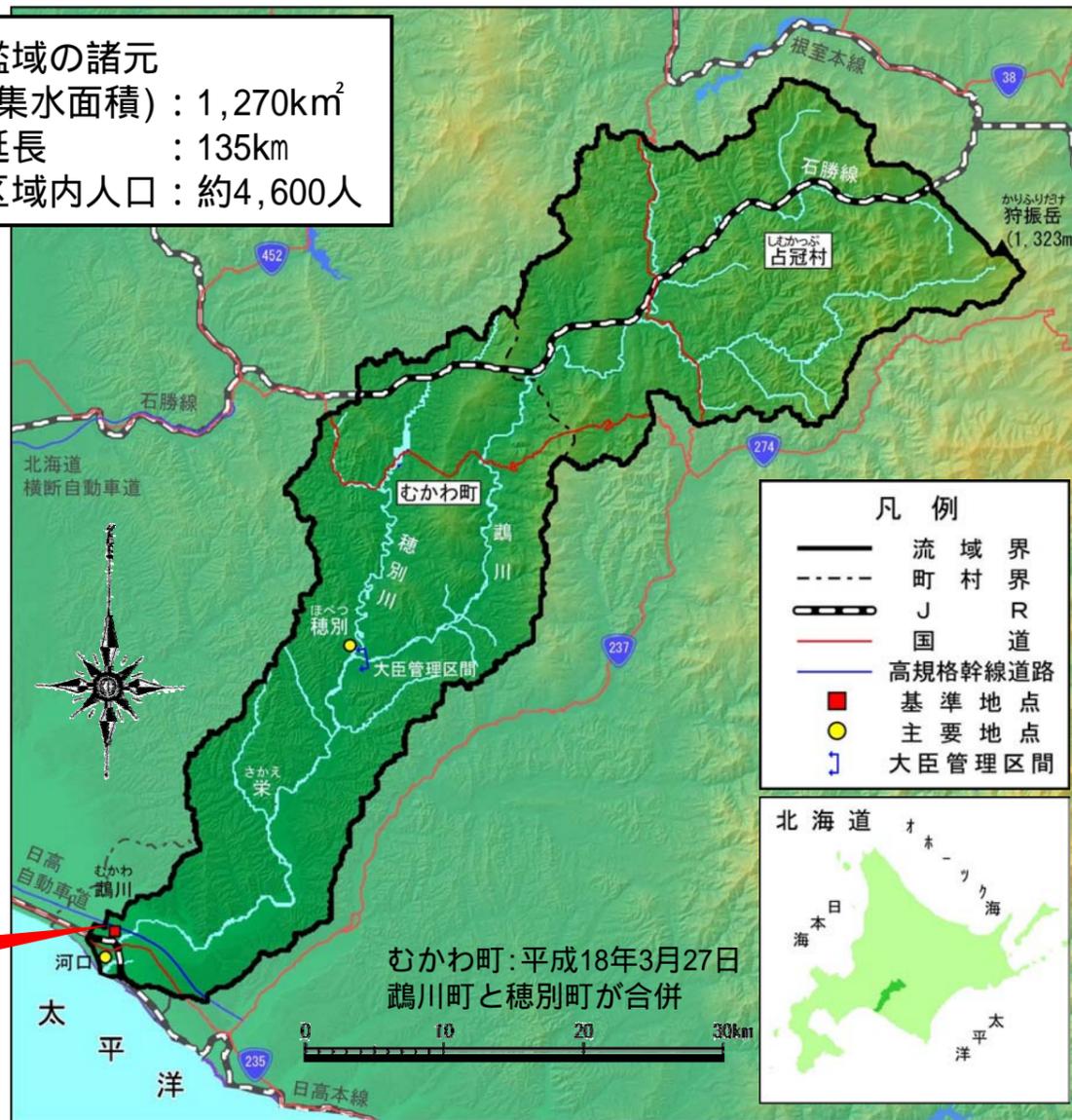
鶴川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

流域形状は南北に細長く、上流部は河床勾配1/150以上の急流河川。下流部の氾濫原に市街地・農地等の資産が集積
 下流部には北海道の太平洋沿岸に生息し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの自然産卵床がみられる
 河口部の干潟はシギ・チドリ類などの渡り鳥の重要な中継地となっている

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 1,270km²
 幹川流路延長 : 135km
 想定氾濫区域内人口 : 約4,600人

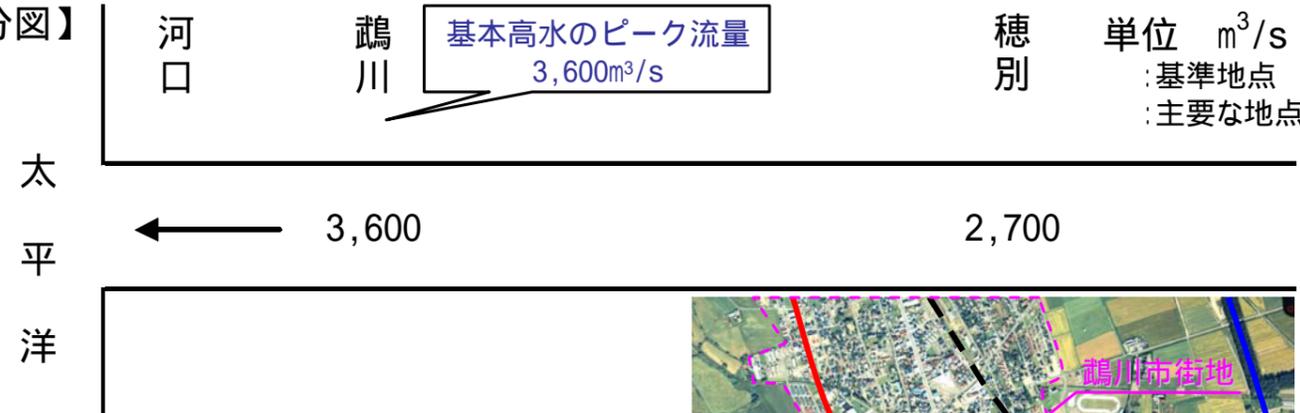


鶴川基準地点
 (高水、低水)

災害の発生の防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような大きな出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討及び既往洪水からの検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等により、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を3,600m³/s(鶴川地点)と設定

【流量配分図】



基本高水のピーク流量の全量を河道で負担
 流下能力の向上を図るため、堤防の新設・
 拡築及び河道の掘削、固定堰の改築を実施
 河道掘削等による河積の確保にあたっては、
 河道の維持、河川環境等に配慮して実施



河川環境の整備と保全

KP3.0~7.0付近には、北海道の太平洋沿岸に生息し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの良好な自然産卵床がみられ、生息環境の保全に努める
 河口部の干潟は、シギ・チドリ等を中心とした渡り鳥の重要な中継地点として知られており、その保全と再生に努める

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める
 鶴川地点において年間を通じて概ね6m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする

